

分科会テーマ	【第5分科会】地域団体・NPO等の組織マネジメント	
テーマ趣旨、 進め方	NPO法人・地域団体であるまちづくり協議会からそれぞれ事例提供を受け、組織をマネジメントする上でのポイントや大事にしていることなどを明らかにした。	
出席者	津久井 あゆみ (特)シミンズシーズ 松岡 千尋 (特)会計支援センター 松本 純一 (特)饗の会ぐりん・どあ 田口 亮 与布土地域自治協議会 向井 祥隆 日置地区まちづくり協議会 浅見 雅之 神戸まちづくり研究所 三戸 勝利 芦屋ハイランド寿会	浜田 輝茂 ふるさとひょうご創生塾 遠藤 由美子 まちかどミュージアムを成功させる会 小川 温子 まちかどミュージアムを成功させる会 森 正枝 子どもの遊び場を考える会赤とんぼ 大宮 慶子 ハートランドぐり石ネット 小島 香織 養父市人権協働課 豊岡 敏弘 佐用町南光支所
ファシリテーター	柏木 登起 (特)シミンズシーズ (一財)明石コミュニティ創造協会	ゲストスピーカー 玉田 恵美(特)姫路コンベンションサポート 川島 幸夫 魚住まちづくり協議会

事例・話題提供

【事例1】玉田 恵美((特)姫路コンベンションサポート)

- ・スタッフは現在34人。イベントがきっかけとなった。次もやれればという声上がり、ボランティアでは難しいと思い、NPO法人になった。
- ・数年前に突然2週間入院することになった。事業継承を考えていかなければならないと思い、そのための課題を洗い出して必要なことを考えていかなければならないと考えた。第三者としてファシリテーターを依頼した。
- ・ファシリテーターが入ってわかったことは、代表者とスタッフには思いの違いがあること、本部と指定管理施設の間にも思いの違いがあったことだった。
- ・その後、ブランディング等に取り組んだ。具体的には①法人のミッション、 credo(社訓)づくり、②5年先の法人の方向性づくりをした。
- ・組織を運営していくのは、理事長のトップダウンではだめ。課題を見つけて、仲間を集めて、役割分担していくことを、ゆるやかに丁寧にやっていく必要がある。

【事例2】川島 幸夫(魚住まちづくり協議会)

- ・魚住まちづくり協議会は、平成25年から新しいまちづくりの形を目指し、組織改革をした。現在事務局員3名の体制。住民アンケートを取り、まちづくり計画書を策定する中で、新組織を作った。
- ・新しい組織は、住民主体を掲げており、各種団体の「長」でなく、あて職なしとした。個人でも参加できる仕組みということで「まちづくり応援隊」で構成する仕組みにした。
- ・その過程では、第三者に入ってもらって意見交換(ワークショップ)を実施した。
- ・10年後のビジョンを作り、中期計画づくりを行った。
- ・事務局の役割はコーディネーターだと思っている。
- ・組織の約束事としては、①会合には誰でも、いつでもウェルカム、②楽しく、発言できるように、③強制参加はしないなどがある。
- ・まだまだ住民への周知が不足していると感じている。現在、全員参加のまちづくりを目指して、まちづくり協議会のブランディングをしようと思っている。
- ・「組織を作り、動かすのは人。人と人のつながりづくりを大切にすること」が、継続性のある組織につながっていくと思っている。

意見交換の内容

○スタッフとのコミュニケーションはどうしているか？

- ・大きな組織だとメンターをつけるなどの制度ができるが、なかなか小さいとまくいかな。○○先輩に相談してねというように伝えるようには意識している。理事長がフラッと突然事務所に行く等も意識している。
- ・スタッフとのコミュニケーションの取り方は、できる限り「どうしよう?」「どうしたい?」と聞くようにして、自分たちで決めさせるように意識をしている。

○まちづくり協議会の組織改編の動機は？

- ・一つのきっかけは行政の条例が作られたことだった。もう一つの動機は、地域も縦割りの組織になっていて、横につながっていないことを課題として感じたことだった。

意見交換の内容

○メンバーを増やしていく工夫は？

・3年経ってようやく地域の中で浸透してきた。でも、回覧板では結局人は集まらない。出向いての声かけが大事だと思っている。声かけすることを意識している。

○部会制にするとどうなのか？温度差ができないか？

・部会ごとに温度差は当然出てくる。そのため、部会長を交代したりしている。
・部会の調整役が事務局だと思っている。

○自治会との関わりは？

・やはり自治会に関わっている人でないと難しいところはある。一度は自治会と何らかの関わりを持つことが必要だと思う。自治会とうまくバランスを取ること。

○大きなイベントをたくさん実施しているが、体制は？

・実行委員制を取っている。それもいろんな人を巻き込む手段。NPOメンバーは裏方に徹している。

○理事長が判断しなければならない時は？

・一つは人命に関わる時。二つ目はお金。ただお金で解決できるならいいとも思っている。三つ目は魂に関わる部分。企画への想いや情熱に関わる場所だと思っている。
・人がいて組織があって公的な活動をしていれば悩みは同じ
・まち協って大変そう。
・代表(理事長)とスタッフの思いは決して同じではないというところに強く共感。それを埋めるために第三者が入り修正したというのが納得
・地域の人がまちづくりに興味を持てるコミュニティづくりをいろんな活動を通してプランを考えていただいているなあと思った。その情報がやはり一部の人たちの中だけで共有されていると思った。
・ミッション、クレドってもっとちゃんと考えなくてはならない。
・組織運営の難しさは多少なりともあるものだと感じた。
・事務局(理事長)が各イベントにどれくらい関わっているか。
・NPOとして公的施設の指定管理を任されるメリットは？(人件費は全て委託費で？)
・私はむしろ事業を継承するため呼ばれてきた側の人間なので理念の継承というのは日々学んでいる側のスタートでした。初期立ち上げ世界とどう価値観をすり合わせ、今後組織づくりをしていくか考えているところですので、ブランディングは今後考えていかなければならない課題ではと思った。
・楽しみながら進めていくことができている。(私がやらなくては…)
・運営者とスタッフの意識の違い、考え方に差があるというのはそのとおりだと共感
・NPOと地域団体で組織運営についてよく似ていると思った。
・大きな組織だと意思統一が難しいし、それをまとめようとされていることに頭が下がります。
・自団体に共通する課題があって、より詳しくお話を聞きたいです。
・意欲的な取り組みの姿勢に共感しました。自分と似た活動ですので、参考になります。
・ブランディングが大切
・「自己実現の物」という言葉が印象的。ニーズの把握が第一歩
・「第三者が入ることによって冷静な議論が可」といこの話に全く同感